2024 年 9 月 4 日

タイ・コンケン大学との交流レポート

外国語学部・津村文彦

今回の海外研修（地域観光の振興を目指す PBL 型多言語フィールドワーク）タイ・コンケン大学を舞台に行われた研修は、II＋プログラムが 8 月 5 日から、II プログラムが 19 日から、ともに 8 月 25 日まで実施された。具体的な交流内容は、名城大学外国語学部ウェブサイト「学びの掲示板」に掲載している。

＞https://www.meijo-u.ac.jp/sp/foreign/manabi/detail/30387.html ほか

コンケン大学での交流事業としては、II+プログラム（3 名参加）では、8 月 5～23 日まで平日午前にコンケン大学人文社会学部にて英語の授業（09:00～12:00）を受講、午後はタイ語の授業（13:00~14:30）を受講した。また 14:30～16:00 は人文社会学部日本語学科の学生がマンツーマンでチューターとなりタイ語の学習を行った。なお、英語の授業、タイ語の授業では、同時期に研修を行った南山大学の学生 7 名と一緒に学習を行った。こうした学習を II+では 8 月 23 日まで継続した。24 日以降、および 19 日以降の午後の部は、以下の II プログラムと同様である。

II プログラム（6 名参加）では、8 月 19～23 日まで平日午前にコンケン大学人文社会学部において、タイ語の授業（09:00~12:00）を受講した。午後は日タイ文化比較のプレゼンテーションに向けて、13:00～14:30 に日本語学科の学生たちを中心にインタビューを行った。また 20 日の 14:30 からは書道のワークショップを行い、タイ人学生に書道のやり方を教授した。また 21 日の 14:30 からは、日本料理のワークショップを行い、タイ人学生にうどんを作って全員で試食を行った。23 日午後には、日本とタイの文化比較のプレゼンテーションをチームごとに行った。学校での昼食、占い、アイドル文化などをトピックとして取り上げ、それぞれが活発な議論を行った。最後の 23 日夕方にはフェアウェルーパーティーを行い、学部長出席のもと、全員が修了証を受け取った。

24～25 日は、コンケン県ムアン郡の農村においてホームステイを行った。タイ人学生とともに、田植えや花輪作り、モノづくり、寺院での参拝や托鉢への参加などを行うとともに、タイの農村での生活を実践した。

コンケン大学との交流は今年度で 5 年目になるが、今年は新たな試みとして JASSO の支援を受けた長期プログラム II+を実施することとなった。教員の引率や、両プログラムの参加メンバーのあいだの壁などいくつか課題があるが、来年度以降の検討については改めて検討したい。

写真 1 書道ワークショップ

写真 2 プレゼンテーション

写真 3 ディスカッションの様子

写真 4 村落での田植え

海　外　研　修　報　告　書

プログラム責任者

所属学部・学科	情報工学学部　　情報工学科		
職名	教授	氏名	川澄 未来子

プログラム名	グローバル ICT エンジニア育成のためのタイ研修
開催場所	タイ
開催期間	2024 年 8 月 14 日（水）~ 8 月 23 日（金）

プログラム報告

本学の海外協定校であるラジャマンガラ工科大学タニヤブリ校（以下 RMUTT）キャンパス内のホテルに滞在しながらタイの同世代学生たちと交流し、現地講義の参加や実習を体験するとともに、日系企業の海外拠点やローカル企業を訪問した。

8/14（水）-23（金）学生交流・企業視察活動
・RMUTT 学長挨拶，名城オフィス訪問，学生交流
・RMUTT キャンパス見学（工学部，農学部，マスコミ工学部，伝統舞踊など）
・RMUTT Color Research Center レクチャー受講
・ローカル企業（BG），寺院視察
・日系企業（TT FTS，デンソー）視察
・KMITL AI プラットフォーム開発拠点視察
など

タイ研修レポート（2024/08/14-23）

2024/08/24
名城大学 川澄

33-days stay
4 students
D1
M2
M1
B4

10-days stay
10 students
M2 M2
M1
B4
B3 B3
B2 B2
B1 B1

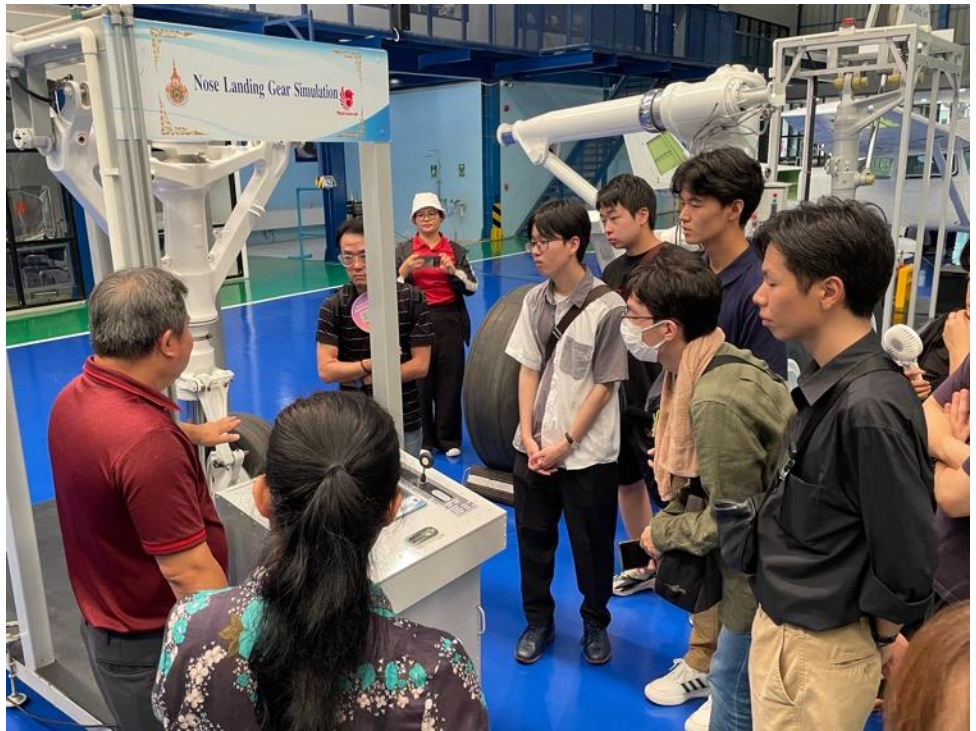
8/15（木）キャンパスツアー
協定校（Rajamangala Univ. of Tech. Thanyaburi）

学長訪問

名城大学サテライトオフィス訪問

Lotus Museum（農学部施設）
見学

工学部施設見学



工学部施設見学
（Airbus搭乗）

マスコミ工学部
施設見学

学部長代理挨拶

ラジオ収録体験

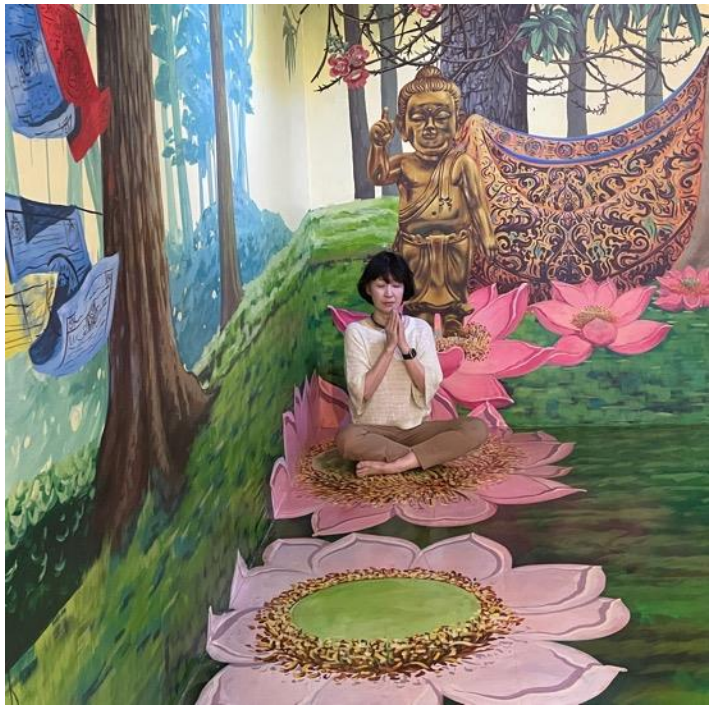
モデル体験

タイ伝統舞踊体験
（舞踊・音楽学部）

学生交流会

8/16（金）AM
寺院訪問
（仏教体験）

3Dアートで仏教の教えを体感



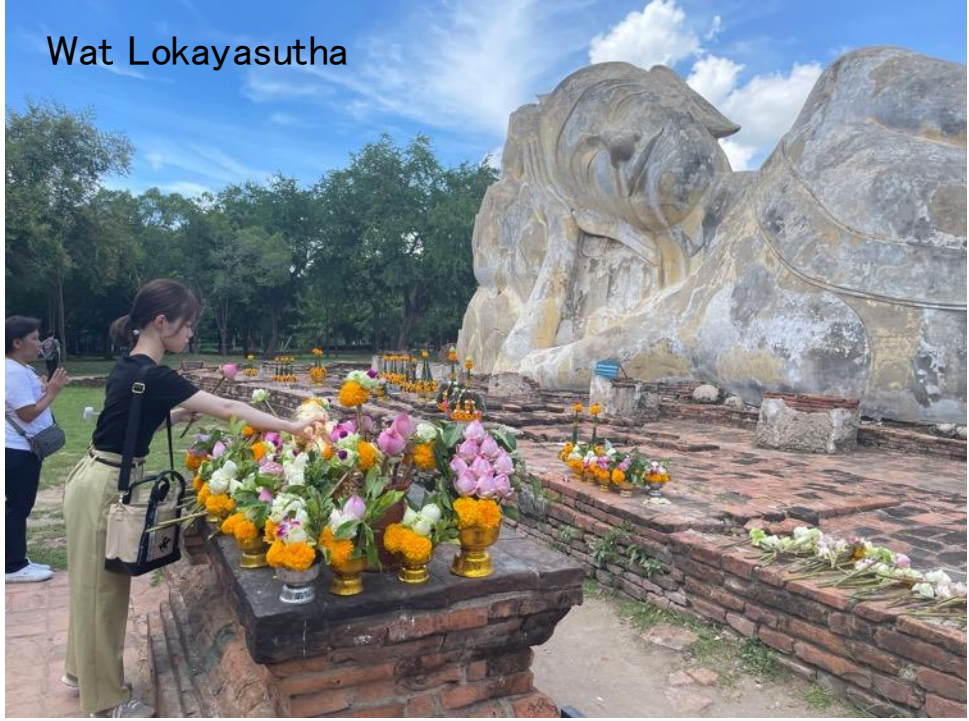
僧侶による説法

8/16(金)PM
BGPU 視察

Singha Beerが運営

シンガポール代表と

8/17(土)
Ayutthaya 文化視察



8/18(日)
Ko Kret
文化視察

サイクリング

5 THBで
チャオプラヤー川を渡る

名物の花の天ぷら

8/19（月）
午前
調理実習

8/19(月)午後
Color Research Center 講義受講

Color vision基礎(Chompoo先生)

LGBTQと色の研究(Kitirog先生)

8/20(火)午前
TT Fuji Tool Support 訪問

石原社長

タイ料理とスタッフによる
温かいおもてなし

8/20（火）午後
デンソー
バンパゴン工場
訪問

宮坂代表
（後列左から3番目）

ASEANにおけるソフトウエアを活用した未来の工場とは（矢ケ部さん）

最新の工場設備を視察

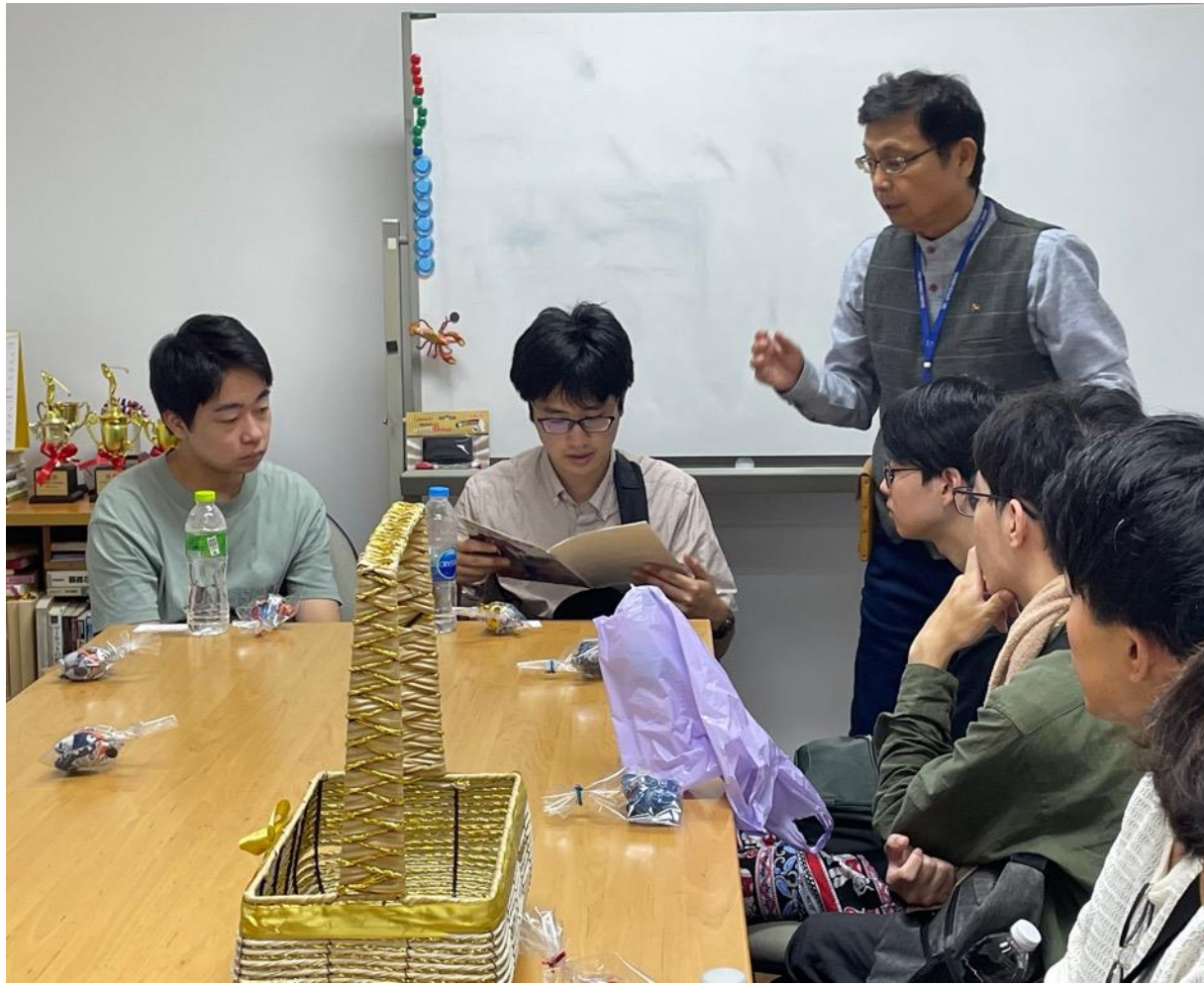
8/21(水)午前
King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (KMITL)訪問

College of Advanced Manufacturing Innovation

CiRA CORE
（タイ純正の
Low-code
AIプラットフォーム）
の開発現場

熊谷くんの研究を紹介

8/22(木)午前
タイ名城会 山口会長訪問



Serm-rmit Tower 10F　オフィス入口にて

いろいろあったけど…
全員、無事帰国
Calypso 1988
THEATER

海外研修ベトナム研修実施報告書

プログラム名	ベトナム研修
協定校名	ハノイ経営工科大学
研修期間	令和　６　年　８月５日～令和　６　年　８月７日
参加人数	４５名
実施責任者	経済学部経済学科　　佐土井有里

内容
令和６年８月５日～7 日に【協定校】ハノイ経営工科大学 HUBT でベトナム研修を実施した。
研修内容を以下の通り報告する。

１．８月 5 日　ハノイ経営工科大学観光学科学生とハノイの南 150km に位置する Ning Bing 古都をバスで一泊 2 日で訪問した。約 1000 年前の古都であり、歴史、世界文化遺産である古都観光をとおして、歴史と自然、観光産業について学んだ。

２．８月 6 日　住友電装ハノイ工場を両校の学生で実習訪問した。
Sumi Wiring System は佐土井の卒業生が経理部長として駐在しており、8 : 00～15 : 00 まで、現場実習、現場見学、駐在者との懇談会を実施した。
ハノイ経営工科大学の学生たちは、ベトナム人社員との懇談会を実施した。
その後、ベトナムローカル企業 DAIAN を訪問し、ベトナムローカル中小企業の企業努力や現状を学んだ

３．８月 7 日　ハノイ経営工科大学において、終日交流プログラムを実施した。
始めに両校の交流の歴史、協定書付則の調印式を行い、その後、両行から 7 本ずつのプレゼンテーションと質疑応答を実施した。
名城大学から 7 本の SDGs アイデアを英語で 33 名がプレゼンし、HUBT 側からはベトナムの文化、伝統に関するプレゼンテーションを 7 本、合計 18 名の学生が英語でプレゼンした。その後、活発な質疑応答の時間を設けた。

４．イオンモールにて交流

　終日の発表会の後、7 グループに分かれ、ハノイ郊外にある巨大イオンモールを訪問し、ベトナム人と日本人の小グループで食事や買い物を楽しんだ。日本のイオンモールとの商品・価格比較を通して、学生が活発に交流することができた。

交流内容の詳細については、学生報告書にて報告する。

海外研修　国際フィールドワークオランダ研修実施報告書

プログラム名	国際フィールドワークオランダ研修
協定校名	ライデン大学
研修期間	令和　６　年　８月２７日～令和　６　年　９月７日
参加人数	１９名
実施責任者	経済学部経済学科　　佐土井有里

本フィールドワーク【協定校　ライデン大学】とアムステルダム自由大学（協定校として準備中）を中心に国際フィールドワークオランダ研修を実施した。（訪問国：オランダ、ベルギー、シンガポール）下記４つを活動軸として展開、2024 年８月 27 日（火）～９月７日（土）にかけて海外活動を展開した。

① 海外現地との交流を通じて国際的視野を磨き、自分の世界観を広げる
② 経済・産業関連施設を視察・調査し、経済のグローバル化の理解を深める
③ 現地の文化と接することにより、多様な価値観を尊重するマインドを育てる
④ 英語力のレベルアップとコミュニケーション力をつける

①　概要

実施スケジュール（一部抜粋）

8/27 ～28	(Tue/ Wed)	移動、アムステルダム到着後、市内散策など
8/29	(Thu)	在蘭商工会議所訪問、国立美術館見学など
8/30	(Fri)	**アムステルダム自由大学ワークショップ**①、運河クルーズなど
8/31	(Sat)	アムステルダム市内観光（グループ行動）
9/1	(Sun)	Van Gogh ゴッホ村、ゴッホミュージアム、Windmill St Victor 見学など
9/2	(Mon)	Den Bosch Cathedoral、**Vanderlande（豊田自動織機）訪問**②
9/3	(Tue)	ベルギーへ移動、アントワープ見学
		ブルッセルに移動後、EU議会見学などののち、オランダへ移動
9/4	(Wed)	ライデンへ移動後、**ライデン大学にてプレゼンテーション**③
		キャンパスツアー、ライデン大学日本語学科学生との交流、ディナーなど
9/5～6	(Thu/Fri)	オランダ・スキポール空港からシンガポールへ移動
		シンガポール着後、シンガポールツアー参加、
		萩原電気（Singapore Hagiwara）にて研修、
		萩原電気関係各位、Microsoft 現地部長の方を交えたディナー
9/6～7	(Fri/Sat)	中部国際空港着、荷物引き取り後に解散

本科目は経済学部 佐土井を主担当に、太田が現地引率を手伝う形で展開された。４～７月の講義期間においては、オランダの歴史、経済を概観するといった座学と受講学生によるオランダでの英語プレゼンテーションの用意、作成、練習などの期間を経てフィールドワーク活動に臨んだ。

以下、日程表のうち①、②、③抜粋にて概要を紹介する。

①　アムステルダム自由大学　Vrije Universiteit Amsterdam　ワークショップ
Economic Implications of Aging Populations on Sustainable Development Goals(SDGs)

－Perspectives from the Netherlands and Japan

アムステルダム自由大学では、Prof. Theo Kocken 指導下にてワークショップを行った。同教授は映画 *Your Hundred year Life* の製作者で、年金制度のプロフェッショナルでもある。その教授らに対し、本学学生は事前に用意した下記４テーマを班ごとに英語でプレゼンテーションし、貴重な意見を頂いた。発表のなかには日本と異なるオランダの制度を紹介したり、公的統計を駆使して今後を見据える提言を行ったりする班もあり、教授からは「新たな視線、考え方をもらった」との言葉も頂戴した。学生たちも強く、刺激を受けていた。

アムステルダム大学での発表
① Life Planning For Young People（若者のライフ設計）
② Our Pensions and the Future (私たちの年金と未来)
③ The Different Types of Elderly People（人によって異なるリタイヤ後のライフ設計）
④ Our Future with Dementia（認知症と私たちのミライ））

② Vanderlande 訪問

同社は、1949 年設立のオランダ企業である。小売業、小包・郵便事業向け物流システムに強みがあり、空港の旅客手荷物処理システムにおいては世界トップシェアを誇る。同社は 2017 年、株式会社豊田自動織機が物流ソリューション事業強化のために買収されている。今次の訪問では、Vanderland 研究開発部門の責任者と日本からの出向者の方で対応頂いた。

訪問時は企業概要の説明を詳細に頂き、初めて「物流業」に触れる学生たちは B to B 事業のあり方を学んだほか、企業がどのような戦略をもって買収や企業提携などに着手するのかも興味深くインタビューしていた。加えて R&D センター視察の機会にも恵まれ、モノづくり以外の研究開発のあり方にも関心を抱いていた。

③ ライデン大学 Universiteit Leiden における学生間交流

ライデン大学はオランダ最古の大学であり、シーボルトが日本からの帰国後、同大学で日本について教鞭をとったことから、世界で初めて日本学科が設けられたとされる大学である。今次は同学科の学生たちと交流した。

１～４年生と異なる年次の学生が多く参加し、ここでも本学部学生たちによるプレゼンテーション（①アムステルダム大学向けに用意した内容とは異なり、オランダの学生たちも楽しんでもらえるような内容）を先に発表し、その後、アムステルダム自由大学で行った 4 発表を行った。日本の駄菓子文化や、スポーツ活動、日本語「やばい」が持つ意味多様性や、前もって名城大で撮影した日本の大学生の日常など風景など、オランダの学生たちも楽しく聴き入っていた。時には笑いもおき、英語でのプレゼンが同世代に「うけた」ことに、本学部生たちも手ごたえを感じた様子だった。

導入用プレゼンテーション

② Dagashi（駄菓子）
② Our Life at Meijo University (名城大学生の一日)
③ Sports and Communication（スポーツとコミュニケーション）
④ Yabai（やばいの用法)）

その後、人生 100 年時代をどう生きるか（日蘭比較）について学生たちが調査したプレゼンテーションについて話し合った。

① Life Planning For Young People（若者のライフ設計）
② Our Pensions and the Future (私たちの年金と未来)
③ The Different Types of Elderly People（人によって異なるリタイヤ後のライフ設計）
④ Our Future with Dementia（認知症と私たちのミライ)）

その後、皆でディナーを共にする場面では、互いに英語と日本を交えてオランダの名物料理、パンケーキを堪能した。

以上、概要報告である。ほかにも現地の方を宿泊先にお招きして BBQ を楽しんだり、実際に稼働している風車（小麦粉挽き）を見学し、風車の仕組みを教えてもらったりと「国際」フィールドワークならではの体験も多く堪能した。計 21 名（うち教員２名）の大きなグループだったが、１～３年生まで皆が自分の役割をきちんとこなし、時には他の学生を助けながら 12 日間の行程を終えた。

学生たちが口をそろえてコメントしたのが、今回のフィールドワークのスケジュールの「濃さ」である。企業や大学訪問などハードな面と、現地の方との交流や文化体験、視察などソフト面の両方を兼ねた今回のプログラムは、いわゆる旅行ツアーでは体験できない内容である。この間、学生たちが体得したことは、海外の生活、文化、企業のあり方だけではなく、今後、社会に出た際にチャンスが訪れるだろう海外赴任時のイメージや、現地の方とのコミュニケーションのとり方など多岐に亘る。情報社会と言われる現在において、海外のそれを得るツールは多くあるが、大学生の今、自分たちで考え抜き、体験できたことは必ずや彼らの長い人生において大きな糧になると感じさせられたフィールドワークでもあった。

海　外　研　修　報　告　書

プログラム責任者

所属学部・学科	理工学部	建築学科	
職名	教授	氏名	石井　仁

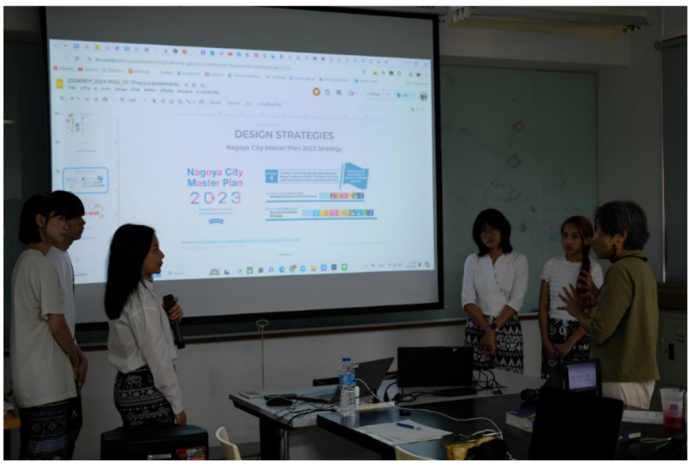
プログラム名	建築都市デザイン国際交流研修
開催場所	名城大学天白キャンパスおよびチュラロンコン大学（タイ）
開催期間	2024 年 8 月 1 日（木）～2024 年 8 月 13 日（火）

プログラム報告

協定校であるチュラロンコン大学建築学部ランドスケープアーキテクチャー学科と国際ワークショップを実施した。今回の主催は名城大学理工学部建築学科である。参加者は名城大学から大学院生 4 名ならびにホスト教員 1 名，チュラロンコン大学からは PhD 学生 1 名，大学院生 3 名，学部生 2 名ならびに引率教員 1 名の計 12 名である。

ワークショップでは「Portable Park on Vehicle-Free Promenade」のテーマのもと，両校混合の 2 グループで設計提案を行った。ワークショップの期間中に課題の対象とした南大津通りの踏査，分析と問題抽出を行った。それを踏まえてコンセプトの策定，設計を行った。ワークショップでは名城大学での中間発表会とチュラロンコン大学へ移動してからの最終発表会を開催した。グループでの活動を通して，異なる専門分野の学問領域への相互理解ならびに協働作業による相乗効果を実感できた。またパーティーやエクスカーション等を通して異文化交流を体験することができた。グループでの設計課題の活動以外にも学科教員による講義・演習が行われた。また愛・地球博記念公園（ジブリパーク含む）の見学やバンコク郊外の文化・歴史を体験するツアーにも参加した。これら全体の活動を通して英語によるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力が向上し，国際感覚が養われた。

研修に参加した両校の学生は，相互に英語，タイ語，日本語を駆使して積極的にコミュニケーションを行っていた。翻訳アプリや SNS というツールが円滑な国際交流を促している様子であった。単発の専門的な研修のみでなく継続的な国際交流へ繋がる有意義な研修であったといえる。


DESIGN STRATEGIES
Nagoya City Master Plan 2023 Strategy
Nagoya City Master Plan
2023

Site Zoning
Density of Vehicle Use
Roundabout Sculpture
Eating Support
+ Festival Support
Walking Support
+ Tourists Information Support
Walking Support
+ Performance Support
Walking Support
Shopping Support
Tourists Support
The design of the connection alley and pocket park were thought of from the surrounding context in the site area and the area in the Edion Hisaya Plaza
The pocket park
The meeting point
Linkage

研　修　報　告　書

プログラム責任者

所属学部・学科	法学部		法学科
職名	准教授	氏名	矢嶋　光

プログラム名	第二次世界大戦とホロコースト：リトアニア・ポーランドにおけるユダヤ人の歴史をたどる
開催場所	リトアニア・ポーランド
開催期間	2024 年 8 月 19 日（月）～　2024 年 9 月 1 日（日）

プログラム報告

2024 年 8 月 19 日から 9 月 1 日にかけて、国際専門研修プログラムとして「第二次世界大戦とホロコースト：リトアニア・ポーランドにおけるユダヤ人の歴史をたどる」を実施した。

8 月 19 日に出発し、20 日にリトアニアに到着、同日から 23 日にかけて同国で研修を実施した。リトアニアではヴィリニュスとカウナスの二つの都市を訪問した。ヴィリニュスではヴィリニュス大学歴史学部の Povilas A. Stepavičius さんによる案内のもと市街地を歩き、中世・近代の街並みがわかる通りや歴史的建造物をめぐり、中世以来のリトアニアにおけるユダヤ人の歴史を学んだ。また、カウナスでは 1940 年当時ナチス・ドイツの占領下にあったポーランドから逃れてきたユダヤ人に日本通過のビザを発行し、彼らの命を救った杉原千畝の記念館（旧日本領事館）を訪問するとともに、杉原が帰国したのち、ナチス・ドイツの占領下に入ったリトアニアでユダヤ人の大量殺戮の現場となった第 9 要塞を訪問した。

23 日にポーランドに移動し、24 日から 31 日にかけて同国のワルシャワとクラクフで研修を実施した。ワルシャワでは、まずポーランド・ユダヤ人歴史博物館を見学し、その後ワルシャワ大学東洋学部の Wiktoria Szlendak さんによる案内のもと実際にワルシャワの街を歩き、かつてのユダヤ人居住地やナチス・ドイツ占領下で設けられたユダヤ人隔離地区、ワルシャワ・ゲットーの跡地をめぐった。27 日からはクラクフへ移動し、オシフェンチムにあるアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所を訪問したほか、工場労働者として雇用することでユダヤ人の命を救ったオスカー・シンドラーの博物館（シンドラーの工場跡地）を見学した。

30 日夜にクラクフからワルシャワに戻り、翌日にワルシャワを発って 1 日に帰国、当該研修の全日程を終了した。

ARBEIT MACHT FREI

„METROPOLIS"
RESTORANAS
COFFEE
„METROPOLIS"
RESTORANAS
COFFEE

海　外　研　修　報　告　書

プログラム責任者

所属学部・学科	理工　学部　社会基盤デザイン工学　学科		
職名	教授 准教授	氏名	岩下健太郎 岡本隆明

プログラム名	海外の現場・職場視察やワークショップによる国際的土木技術者の育成
開催場所	韓国　忠南大学
開催期間	2024 年　9 月　8 日（日）~2024 年　9 月 13 日（金）

プログラム報告

令和 6 年 9 月 8 日~9 月 13 日に韓国に渡航し【海外の現場・職場視察やワークショップによる国際的土木技術者の育成】研修を実施した．9 月 9-10 日は韓国・忠南大学にて水文学が専門の安賢旭先生の研究室とワークショップを行った．名城大学の学生は 11 名で「防災」と「土木遺産」の２つのグループに分けて英語で発表し，質疑応答を行った．安先生の研究室では大学院生と博士過程の学生が氾濫解析の研究発表を行い，意見交換した．その後韓国でダム操作や水害リスクを管理している K-Water，Daecheon ダムにて英語で業務説明を受けた．

9 月 11-13 日はソウルに移動した．ソウル日本人学校を見学し，建物自身の施工等について説明を受けた上で，現地で小学生がどのような授業を受けているかについても説明を受けた．フジタ・ソウル事務所を見学し，日本のコンサルタントの海外での事業や働き方の説明を受けた．またソウルでは現地の大学生 2 名と交流し，ソウル市内の土木構造物や国立民俗博物館を見学することができた．

今回の研修を通して海外の先生や大学生と英語で交流することができ，参加学生たちから貴重な経験が得られたという感想がきくことができた．今後も社会基盤デザイン工学科では【海外の現場・職場視察やワークショップによる国際的土木技術者の育成】研修を継続していく．

以上

海外協定校派遣プログラム

研　修　報　告　書

プログラム責任者

所属学部・学科	法学部		法学科
職名	准教授	氏名	長谷川乃理

プログラム名	台湾海外研修
開催場所	台湾（台北市、新北市）
開催期間	2024 年 10 月 31 日（木）～　2024 年 11 月 5 日（火）

教育研究活動および成果に関する報告

10 月 31 日から 11 月 5 日まで、14 名（学生 12 名、教員 2 名）での研修を行った。
11 月 1 日は台湾の最高裁にあたる司法院での研修を行った。ねじれ国会の状況にある台湾においては、本来大法官（最高裁判事に当たる）の定員は 15 名であり、うち 10 月 31 日で任期が切れた 7 名の改選が野党の反対でなされていないという危機的な状況の中での受入れをいただき、むしろその状況についてまさに「なま」の憲法議論を聞くことができた。また、10 月にあったばかりの死刑合憲判決、祭祀相続についての憲法解釈等、日本とルーツは類似していても異なる状態の話を聞くことができた。
また、当日の説明だけでは学生たちには少し難しかったため、当日の説明をご担当くださった大法官助理(日本でいえば最高裁判事の秘書官)の林氏が週末（11 月 3 日）に再度ご訪問くださり、大法官の意見形成に至るまでの助理の役割等についての議論をすることができた。
11 月 4 日、協定校である輔仁大学において研修を行った。輔仁大学側から 3 点（桃園女子刑務所および受刑者の高齢化について、台湾における刑務作業について、死刑合憲判決について）、名城大学の学生も 3 点（拘禁刑導入をはじめとした近時の刑法改正、袴田事件再審判決の特徴、再審制度の明文化）のプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションの数が多く、正直に言えば十分に議論が尽くせたかというと難しいところがあるが、名城大学の学生たちからは受刑者の高齢化に伴い再犯の増加があるか否かについて等の質問がなされ、活発に質疑応答がなされた。また、12 月に今回講義をご担当くださった林政佑副教授が名城大学を訪問される際には特に再審制度の改正について議論ができるようご配慮いただけることとなっている。

文学部
法学部
医学部
芸術学部
理工学部
経営学部
教育学部
生活科学部
外国語学部
社会科学部
繊維服装学部
コミュニケーション学部

事件の概要
・1966年6月30日午前2時、静岡県の味噌製造会社専務宅が全焼し、焼け跡から一家4人の死体が発見
・警察は、現場の状況から会社の内情に詳しい者の犯行を疑い、味噌工場の従業員であり元プロボクサーであった袴田巌氏を犯人と決めつけ、8月18日に逮捕した。

過去に起きた代表的な冤罪事例

教室
名城大学
師生交歓

法律学院

FJCU
FJCU